

音楽

発表者 鈴木 茂

タイトルは『音楽』となっていますが、いわゆる"music"とか"musica"のような意味とは関係なく書きました。ここでは、気楽に音を楽しむ、という程度の意味で、書きました。

オーディオという観点は、この『気楽に』という部分に焦点が当たっていないと思います。私は、オーディオ歴40年を超えていましたが、最近になって、気楽に、ということに焦点を当てていない自分に気付きました。そして、気が付いてみると、一般的のオーディオマニアとは、常に正反対のことをしていました。

- 最低級の機器を使う
- シビアなチューニングをしない方向でシステムをつくる

昔から、オーディオの先生方は、『買って繋いで終りではない』として、設置や使いこなしのアドバイスをしてきました。常日頃から、そういう教義を叩き込まれてたら、自然と、シビアな追い込みをするようになっていました。

ケーブルには気を使う、重量を気にする、電源の極性も気にする。 . .

これがふつうの営みになってきたのに対して、気付いてみると、そんなことしても音は大して変わらない。このことに気付いたときに、マニアとは、すべて逆の行動をするようになっていました。

多自由度バスレフは、いまでも気軽に開発をすすめていますが、当初は、設計を追い込むことで、もっと特性を完璧に追い込めるもので、いずれはそうしていかなければならない、と考えていました。しかし、結局は、追い込んでも部屋の特性で、音は全く変るので、多少の差は気にしない、むしろ、それよりも、聴く音楽に気を使い、上記の『気楽に』を重視するほうが重要なと思いました。気付いてみると、上記のように、チューニングせずに最低級の機器を使うことで、よりいっそ音楽を楽しめるようになったと感じています。

ということで、"Being simple is the best."を重視し、できるだけ安価・単純で、かつ不満足を感じないことを心掛けると、"music"への向き合い方が変わりました。

ということで、本日紹介するのは、小型フルレンジ+UP4Dツィータのシステムです。これは今まで何度も紹介してきましたが、こういう考え方を改めて認識したので、単純+安価、ということで、広い会場で楽しもうと思います。

UP4Dツィータは、使いこなしがほとんど必要ありません。低域カットのコンデンサを直列につなぎます。コンデンサの容量値が変わると音は変わりますが、そんな違いは気にならない。長岡派は、効能率フルレンジのバックロードホーンに、効能率ホーンツィータを加え、測定や聴感を駆使し、ツィータそのものや低域カットのコンデンサの値のみならず、コンデンサのメーカーと型番を決め、正相・逆相を決め、バッフル面から何ミリ後退させるなど位置を微調整し、ときにはアンテナータを使うなど、試行錯誤してきました。これは、調整を趣味とするのだと考えれば正しく、合理性を考慮すると違和感しかありません。

そして追い込んだシステムを聴くには、聴取位置はピンポイントで定まり、首を動かすこともできません。これでは、最初に書いたような、『音楽』とは云い難い。

私のシステムは、こうした呪縛が一切ありません。ぽんと繋いで純粋に音楽を聴くだけ。システムには、カネをかけず、時間もかけない。工作は、純粋に工作として楽しみ、結果には期待しない。

システムには技術的詳細を書かなくても見たとおりで、コストも見たとおりです。ただし、本当にこんなに軽いのか、ちょっとした実験をしてみようかと思います。レベルも演奏者も違うピアノの録音と同じ曲の同じ部分で聴き比べ、さて、違いは判別可能かな？もちろんしっかり聴けば判別可能ですが、そこまでしないと判別できないのだったら、もっと差の小さなオーディオ機器の違いとはいっていい何なんだろう？

そういう結論になるかどうかは分かりませんが、お遊びということで、お付き合いください。